

養父母になった国際養子たち

スウェーデン、デンマークの事例から

Transnational Adoptees Who Became Transnational Adoptive Parents :
Scandinavian Cases

出口 顯

DEGUCHI Akira

はじめに

- ①中国人の女の子の養父になった韓国人養子
- ②韓国人養子の養母になった韓国人養女
- ③南アフリカから養子をもらったアフリカ人養女
- ④ベトナムの男の子の養父母になった韓国人養子とエクアドル人養女
- ⑤エチオピアから養子をもらったエチオピア人養子

おわりに

【論文要旨】

スカンジナビア諸国では、不妊のカップルが子供をもつ選択肢として国際養子縁組が定着している。養子はアジア・アフリカ、南アメリカの諸国を出生国としており、国際養子は異人種間養子でもあり、親子の間に生物学的・遺伝子的絆がないのは、一目瞭然である。彼らの間では、遺伝子や血縁といった自然のつながりより、日々の生活をともにしたつながりが親子の絆として大切にされている。最近の国際養子縁組においては、養子に受け入れ国の一員としてだけでなく、出生国の文化を担った人間でもあるダブルアイデンティティをもたせようという考え方が浸透している。そのような中、国際養子が不妊になり、実子ではなく養子縁組によって家族を新たに形成するとき、養子の出生国選択の理由は何によるのか、養父母になった国際養子5例の事例を紹介し、生物学的特徴の類似性が決して重要ではないことを浮き彫りにする。

【キーワード】 国際養子縁組、スウェーデン、デンマーク、アイデンティティ、生物学的親子関係